

『恵み野中央公園を育む会』

第3回恵み野中央公園ワークショップ

「パークセンター完成イメージの共有、
市民協創による運営管理を考えよう！」



今年度のワークショップ

恵み野中央公園を考える会 (令和5年度～6年度)

ソフト面を視野に入れた
ハード(施設整備)の話し合い

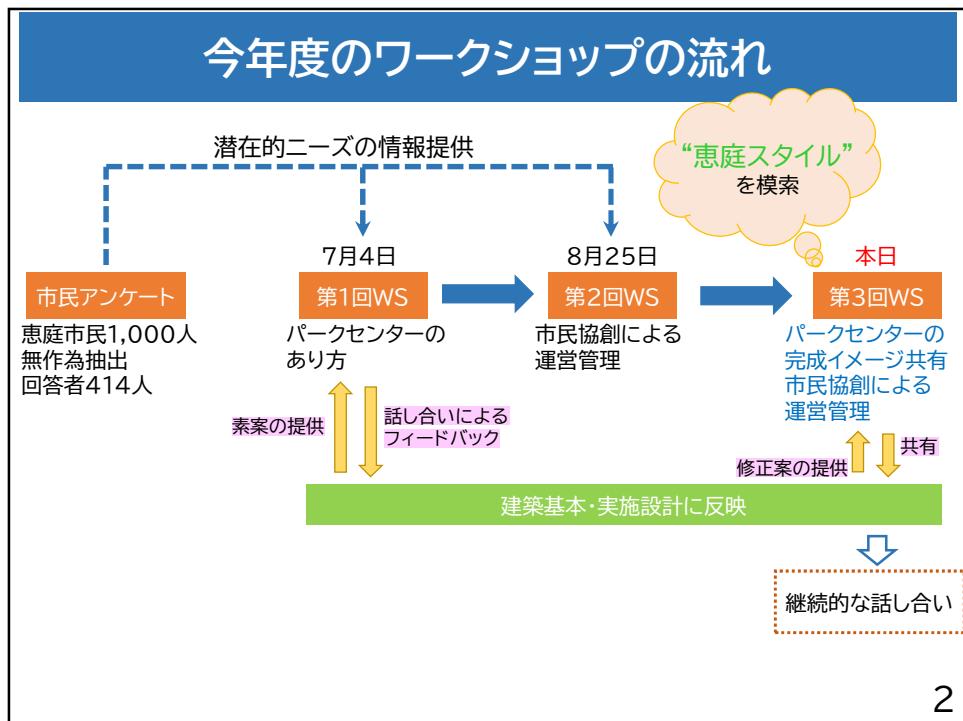
・新たな公園像(テーマ)及び基本方針の設定
・多様化する市民(地域)ニーズに即した施設整備

昨年度までに整理された計画内容を踏まえ、より親しまれる
公園として**市民との協創**による運営管理を考える！

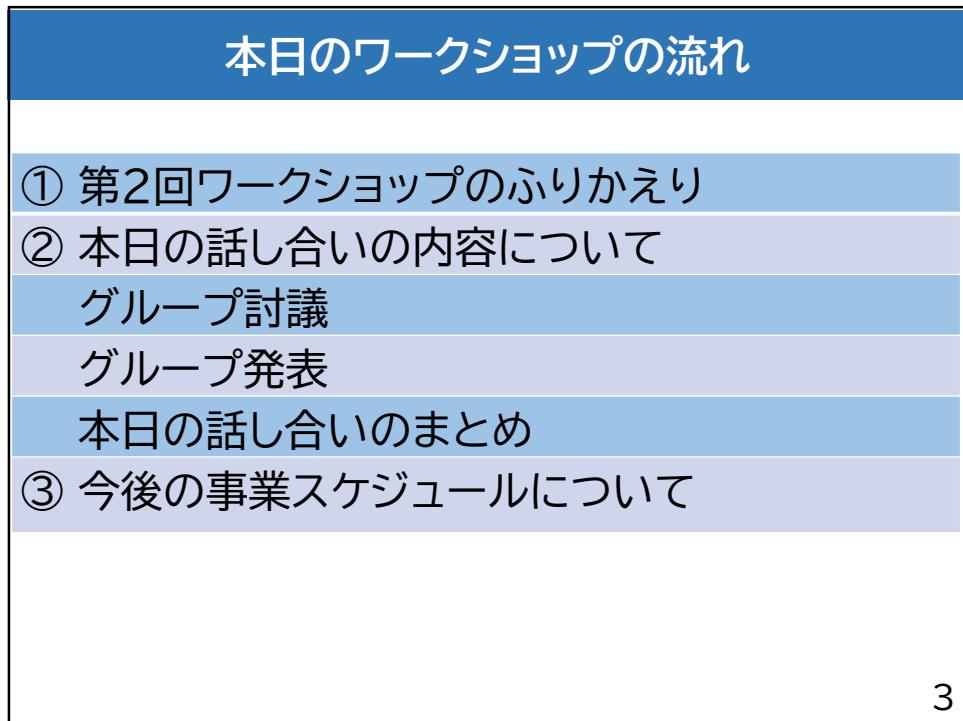
恵み野中央公園を育む会 (令和7年度～)

ソフト(利活用・運営管理)
の話し合い

・中央公園の中核施設となるパークセンターの
あり方について
・市内の核となる公園との連携・ネットワーク化を
見据えた市民協創による運営管理の可能性



2



3

① 第2回ワークショップのふりかえり

市民アンケートの結果報告

【公園に対する市民意識】

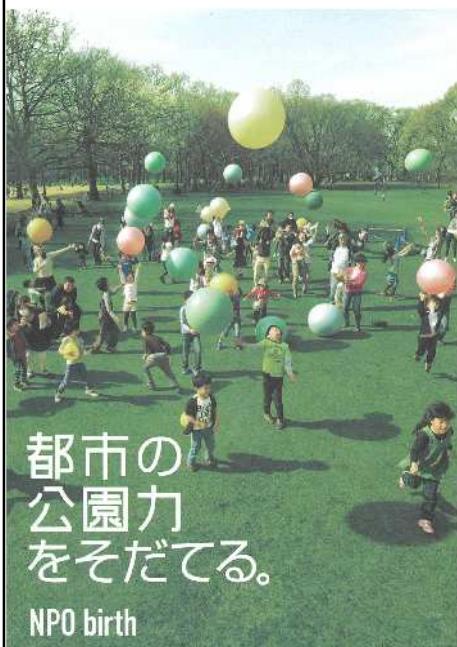
- ・ 現状の公園利用に関する設問では、散策やジョギングを行なながら、四季の移ろいや休憩などを目的とした利用が多い。
- ・ 一方で、公園は“子どもたちの遊び場”として認識している人が多い。

【公園をフィールドにした利活用】

- ・ 公園を利用したイベントや催しへの参加したことのある人は、2割程度に留まっているが、参加者のリピート率は5割強と高い。
- ・ 参加したことのない人の理由としては、催しの開催を知らなかつたと回答した人が多く、様々な媒体による周知方法が肝要である。

4

NPO法人 birth 佐藤氏による今後の公園運営における紹介



5

公園が果たす役割・可能性

- みどりの中間支援組織の役割は、“みどり”と“ひと”と“まち”を繋ぐ役割を持ち、公園のまちづくりに活かすこと。-Well-beingなまちづくり-
- 公園は非常に大きな力がある。環境問題だけではなく、少子高齢化や貧困、健康、ワークライフバランスなどの社会課題を公園が解決する場として機能する。
- これまで公園は国交省が管轄しており、道路と同じような感覚で、安全に市民に使ってもらうということで公園があった。今は公園から考えるまちづくりの場、という考え方へ変わってきている。まちづくりを考えるには、今までと違った新しい仕組みが必要で、新しい担い手も必要。ボランティアの活躍や最近ではパークPFIという取組も広がっている。
- SDGsの観点では、公園緑地が活用されると環境面においては地域生態系を育むことができる。社会面ではコミュニティ活動が活性化する。経済面では地域経済が活性化する。それらの軸として協働・連携する役割を中間支援組織が行っている。

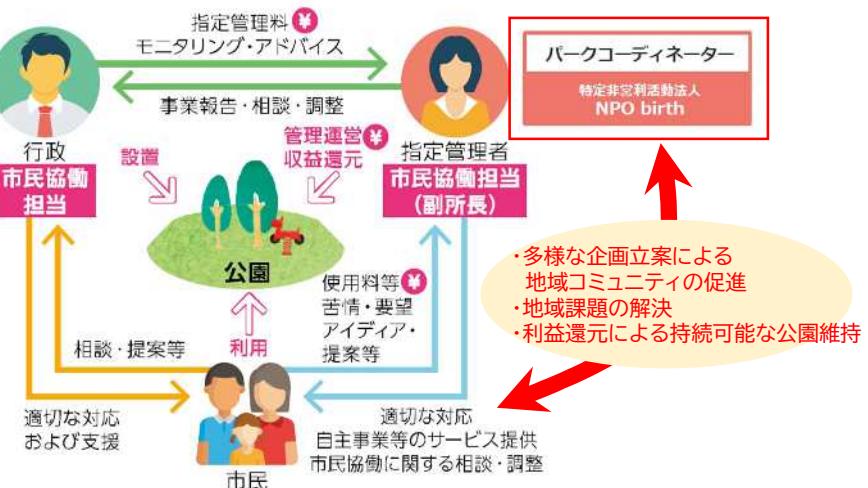
6

公園が果たす役割・可能性

- 専門のパークコーディネータースタッフが、地域ニーズを拾う“アウトリーチ”を行い、テーマに共鳴した人や団体を繋ぐ“マッチング”をし、企画の実現に向けて“コーディネート”する。連携の要となる役割を果たすことで、あつたらいいなを実現する。
- 公園をまちづくりに活かすためには、公園の特性だけではなく、地域の特性を把握する必要がある。地域の産官学民の方々と公園づくりの方向性について考える。これまでの維持管理中心の管理から運営管理のソフトも含めて考えることが非常に大事。

7

中間支援組織による運営管理の事例



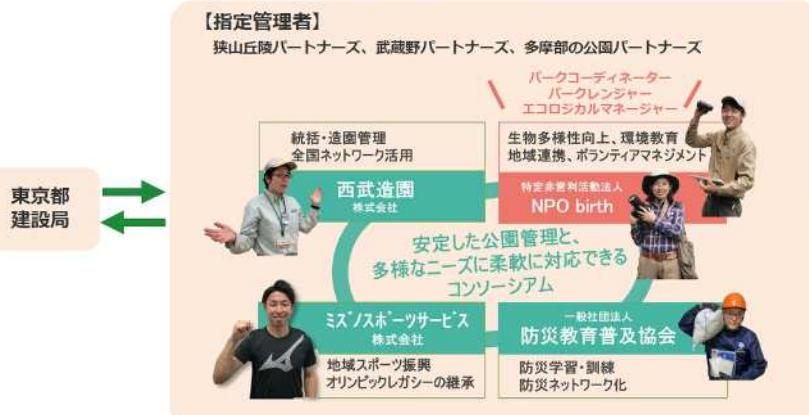
©西東京の公園・西武パートナーズ

8

中間支援組織による運営管理の事例

指定管理者として参画

●東京都建設局
都立17公園(狭山丘陵、武藏野、多摩部)



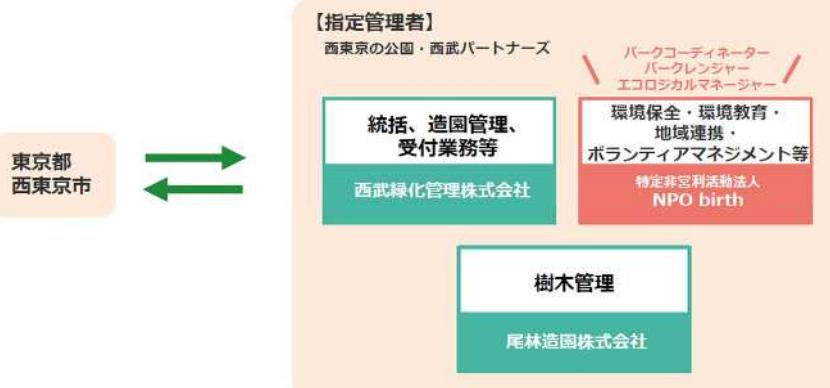
©パートナーズグループ

9

中間支援組織による運営管理の事例

指定管理者として参画

●西東京いこいの森公園と54公園



©NPO birth

10

中間支援組織による運営管理の事例

公園の運営管理として独立

●川崎市グリーンコミュニティ課



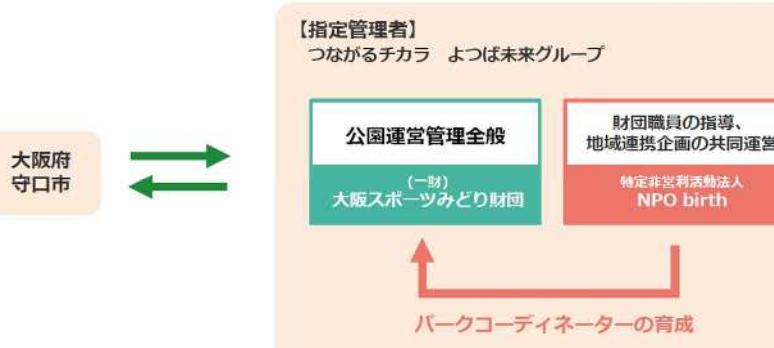
©NPO birth

11

中間支援組織による運営管理の事例

パークコーディネーターの育成

●守口市立よつば未来公園



©NPO birth

12

グループワークで挙げられた主な意見

中間支援組織の設置に関する課題について…

- ・人材はいるが、高齢化が懸念される。まとめ役となる人がいない。
- ・中間支援組織の位置付けは大切であり、当初から役割を整理しておく必要がある。
- ・市に対しても中間支援組織の必要性を理解してもらう。
- ・運営資金が必要。行政からの支援や、公園自体においても集客の仕組みを考える必要がある。講義の中で紹介されていた、サンデーパークのような食に関する取り組みを参考にしたい。
- ・まずは経験のある団体にリードしてもらう必要があり、そこに得意分野を持つ人たちが集まってサポートするような体制が良い。
- ・事例とは人口規模が異なるため、惠庭規模に落とし込んで考える必要がある。⇒惠庭スタイルの模索

13

グループワークで挙げられた主な意見

中間支援組織の設置に向けた体制・仕組みづくりについて…

- ・ 中間支援組織はそこに入る“人”、コーディネーターが大切であり、公募で様々な専門家を集めたい。
- ・ 関係団体同士、横の繋がりを持たせると中間支援組織の関与しないところでの活動が発生してしまうため、中間支援組織を介した体制が良いと考える。
- ・ ルールは最初から決め過ぎず、ある程度余裕のあるものとし、使いながら決めていく方が良い。
- ・ 恵み野中央公園だけが良くなればいいといった考えではなく、将来的には地域全体の活性化という視点で考えることが大事。
- ・ 中間支援組織や関係団体は、市外の企業や団体よりも市内の企業や団体に関わっていただき、継続した雇用を生んでいきたい。

14

グループワークで挙げられた主な意見

中間支援組織の設置に向けた体制・仕組みづくりについて…

- ・ 運営していく団体は、地域の特性を考えたメンバー構成したい。また、ソフト管理を得意とする団体のみならず、まちづくり協同組合など、ハード管理を得意とする団体も必要。
- ・ 人材はいるため、横の繋がりを活性化させるネットワーク化が必要。
- ・ お金は出すが、口は出さないようなバックアップ体制が必要。
- ・ 各施設の管理は個別で対応している状況のため、運営管理を一本化する。アメリカのネイバーフッド(住民自ら考えて、まちづくりを行っていく手法)のような仕組みづくりが理想。

15

グループワークで挙げられた主な意見

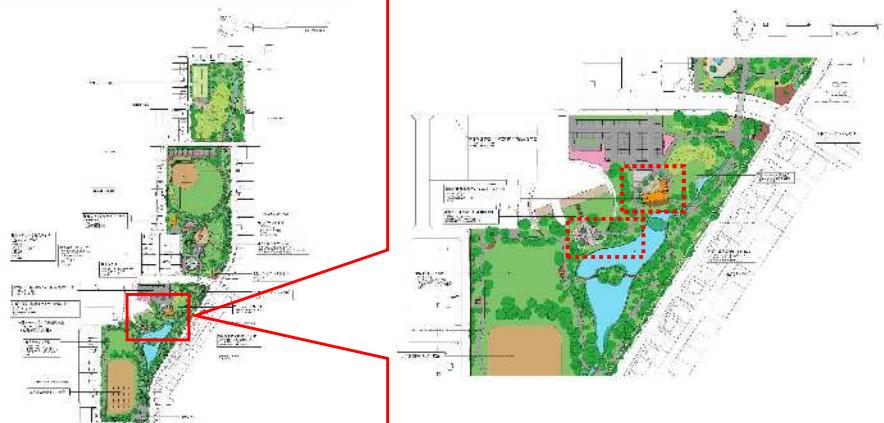
中間支援組織の具体的な運営内容について…

- 中間支援組織が企画による活動により、公園の維持管理費の一部に充てられるようにしたい。
- “情報の統一化と多様化”パークセンターが情報を収集、発信する場としての活用していきたい。情報ネットワークで賑わいのある“使われる場”になる。ここに来れば、公園だけでなく、他の場所(例えば町内会)の情報も得られる場。
- 健康案内所のような、福祉や医療とも連携が図れる取組みや機能があると良い。

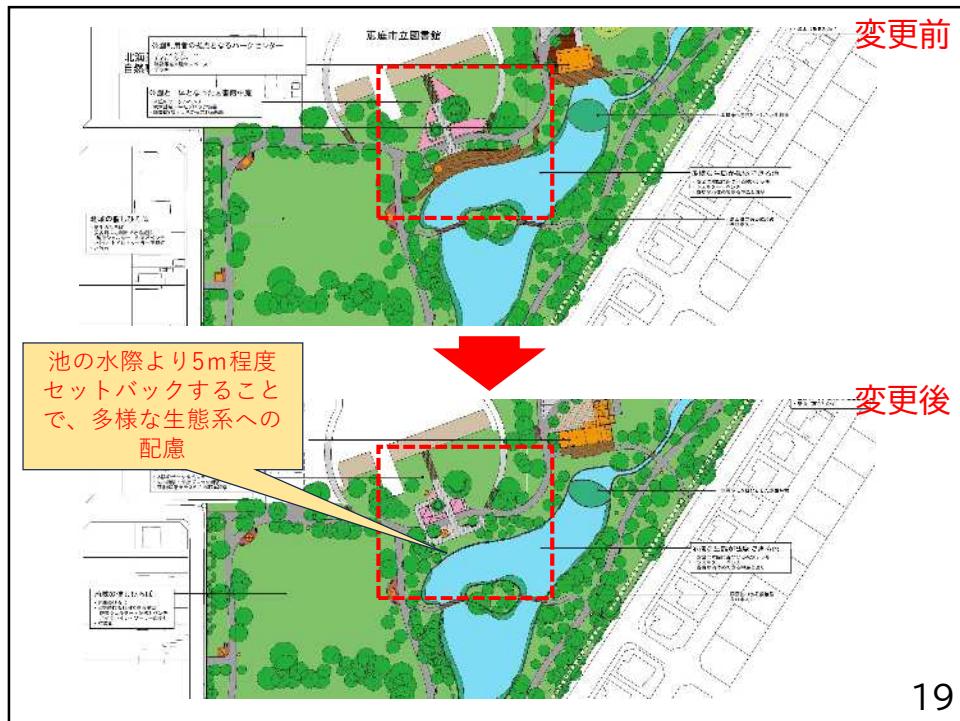
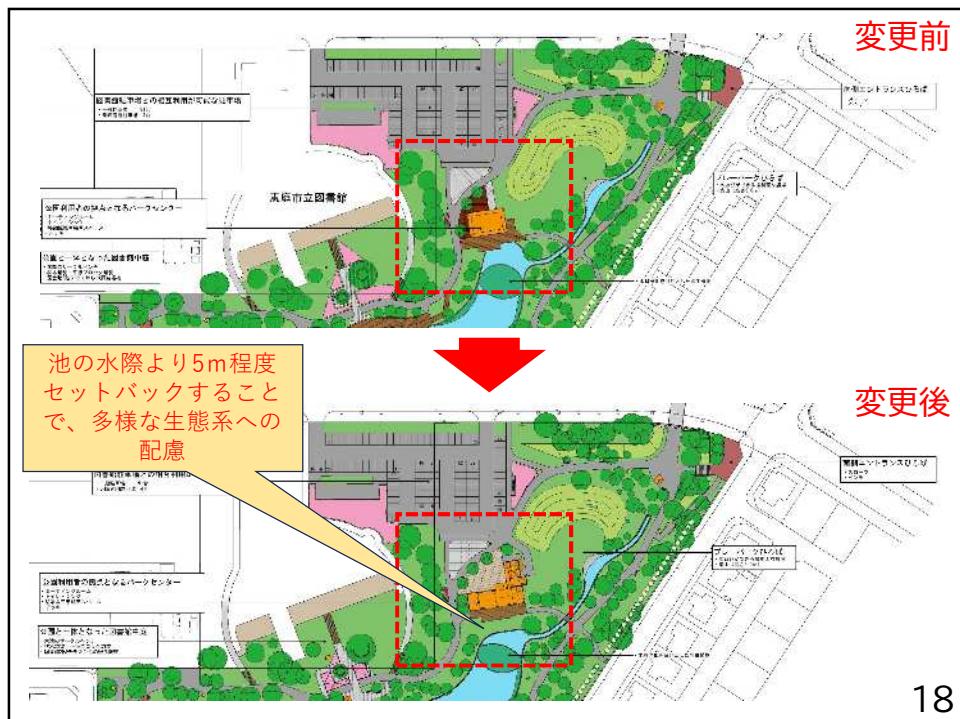
16

本日の話し合いの前に

改修計画案の一部見直し 多様な生態系に配慮すべき池部との緩衝帯の確保



17



本日の話し合いの前に

北側エリア“誰もが楽しめる遊具広場” インクルーシブ遊具のアンケート実施

- インクルーシブ遊具～障がいの有無に関らず、誰もが各々の体力や能力に応じて遊べる遊具
- 市内の障がい者支援団体(肢体・精神・視覚)へのヒアリングの実施
- 諸条件(遊び要素・規模・費用など)を整理した上でコンペティションの実施
- 恵庭市・コンサルによる1次選考により上位3案を決定
- 恵み野小学校、恵み野旭小学校の児童を対象とした2次選考

20

インクルーシブ遊具 上位3案イメージ

恵みのトンガリ山
エエンイワン



岩山をモチーフ
真ん中が高い3層になっていて
好きな高さで遊べる

グリーン
ファンタジア



緑をモチーフ
3層になっていて
好きな高さで遊べる

めぐみのかいろう



太陽と花をモチーフ
ドーナツ状のデッキが
特徴で好きな場所から出たり入ったりできる

21

本日の話し合いの前に

パークセンター完成イメージの共有

第1回恵み野中央公園を育む会（7月4日）で挙げられた
意見・要望を踏まえた修正案

22



※イメージのため、今後の詳細設計において変更する場合があります。

② 本日の話し合いの内容について

☆ 前回までの話し合いで挙げられた課題

【地域・人材】

- 各分野で活動する人や団体はいるが、横のつながりが乏しい
→各々をつなぐ人材(組織)が必要
- 活動されている人たちの高齢化
→20年後、30年後を見据え、次世代を担う人材の育成
- 恵庭市の規模や地域性に合わせた運営組織を検討
→“恵庭スタイル”的構築

【行政】

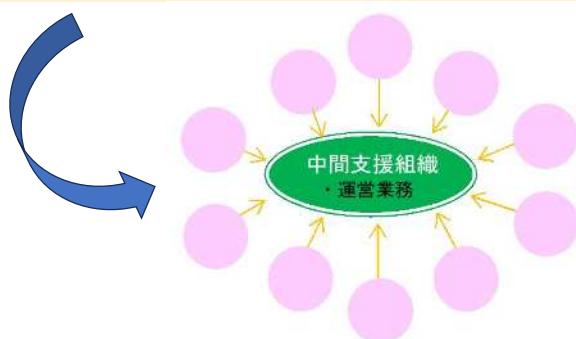
- 有償化による支援体制
- 中間支援組織との契約締結に至るまでの細部条件整理

24

② 本日の話し合いの内容について

① 今後、恵庭市の規模に即した“恵庭スタイル”中間支援組織の設置を考えていく場合、どの様なメンバー・団体が関わっていくのが良いのか？

中央公園を取り巻く環境を踏まえて、メンバー・団体のピックアップを行います。



25

内倉さんからの意見

「公園に暮らしの保健室」を

- 暮ら上の保健室は秋山千子さんが提唱し考、全国に50ヶ所が開設していま。その目的は地域の社会資源を活用した保健や医療の専門家が、いつもいること、くつろいで安心して何でも話しているうちに、困りごとを自分で整理し、できそうな解決策を探せるところです。
- 学校には保健室があり保健室の主な役割は臨床診断、健康相談、保健指導、救急搬送、そして保健に関する他の性の指針の5つです。これらは、学年別言葉や学年別健安手帳が定められており、児童一歳の記録を作り、心身の成長を個別・総合的に追跡するための活動手帳となっています。
- 起立障害が進んでいる中で高齢者のための保健室ではなく、自然の災害や災免的な寒気に見立った時に相談する機関、介護者を抱えた家族、おひとりさまの者や高齢者が相談する場所が現れています。それぞれの機関では運営している川瀬が、終市民には見えていないのです。ケアテポートセンター、社会教育、精神疾患、介護施設、在宅医療、在宅看護、講習や研修のことなど、これから迎える色々な分野の支援が図られ、困ったときには「公園に暮らしの保健室」に立ち寄る。そこには当社がある、東日本や西日本がいて何處に相談すればいいかお支えしてもらえる。
- 「世が生まれてからは有能者の指導があり、子供には学があるのに、高齢になり最断までどのような人をやうとするかの遊びの場が確立されていません。お呼びに来る。それぞれの需要ではセミナーも行われているが、パワーパラの為に問いただしの人に書いていない現実があります。
- そこで、経営の改善に着手を最初作ることが重要と考えます、それが「公園に暮らしの保健室」になります。
- この「公園に暮らしの保健室」は平成羽である内容と考えています。

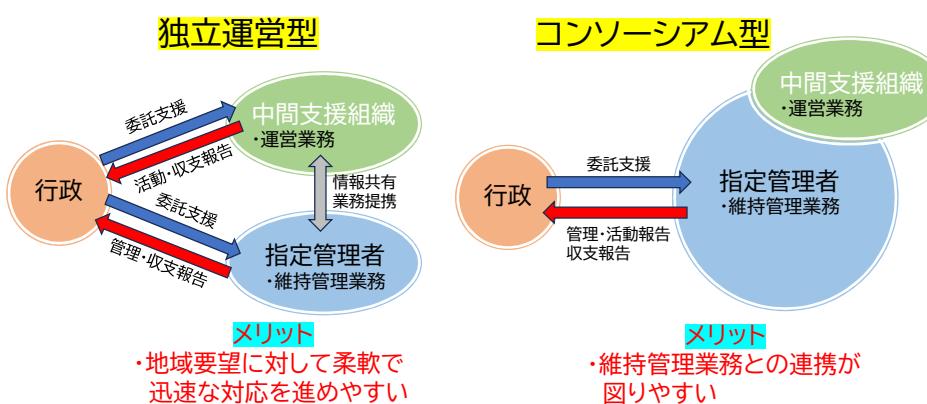
これからの公園の目指したい形の一つとして
『ゆりかごからパラダイス』

➡ 福祉・医療・介護などの相談窓口の役割を持たせたい！

26

② 本日の話し合いの内容について

② 中間支援組織を設置した場合、どの様な体制が望ましいのかを考えます。



※コンソーシアム～共通の目的を持つ複数の組織が協力するための共同体

27

グループワーク

残り **60** 分



グループワーク

終了



③ 今後の事業スケジュールについて

